

諸外国の遠隔教育大学における学習支援員（チューター）制度の比較

青木 久美子¹⁾

A Comparative Study on Tutoring Systems at Distance Education Universities in Different Countries

Kumiko AOKI

ABSTRACT

The premise of this article is that tutoring systems are essential to the successful provision of distance education programs. Various tutoring systems are employed in different distance education programs. This article surveys the different tutoring systems at 11 different universities in the U.K., U.S., Mexico, Korea, Germany, Netherlands, Spain and Greece in terms of: (1) the role a tutor plays at the institution, (2) the management system of tutors, and (3) the means of communication between tutors and students. Then, the article attempts to model the tutoring systems based on the relationships among students, teachers, learning materials and tutors, and presents four models of tutoring systems in distance education programs.

要 旨

本稿では、学習支援員（チューター）制度が、効果的な遠隔教育プログラムの提供に欠かせないものであると考える。様々な学習支援員制度が様々な遠隔教育プログラムで採用されている。本稿では、まず、英国、米国、メキシコ、韓国、ドイツ、オランダ、スペイン、ギリシャの11の遠隔教育大学における学習支援制度を、(1) チューターの役割、(2) チューターの管理体制、(3) チューターと学生のコミュニケーション手段、の3つの観点からまとめる。最後に、学生・教員・教材・チューターの4要素の関係性から学習支援員制度の4つのモデルを提示する。

I. はじめに

大量生産・大量消費によって支えられた工業社会を経て、知的労働によって支えられる知識社会に転換している現在、高等教育の現場、特に遠隔教育の現場において、ICTを効果的に活用した学生中心主義（student-centered learning）や構成主義（Constructivist）の理念を基にした教育の重要性が世界各国で認識されてきている。学生中心主義の教育に欠かせないのが質の高い学習指導員（チューター）であり、遠隔教育において効果的な教育サービス提供のため、多数の学習指導員を組織的にどのように活用・管理し、質を維持していくのかが、大きな課題となっている。特に多数の学生を対象とする遠隔教育大学において、実際に学生とインタラクションをはかり、学生の質問に回答を

し、学生の学習過程において様々な助言・指導をする学習指導員（チューター）は大変重要な役割を担う。この研究では、諸外国の遠隔教育大学において、大学全体の教育モデルの中で、チューターがどのように配置・役割分担・管理・訓練され、どのような手段を持って学生とインタラクションをはかり、どのような形で報酬を受け、どのような教育効果を期待されているのかを、訪問調査を中心に調べ、チューター制度のモデル化を図ることをその目的とした。諸外国の遠隔教育大学で導入されているチューター制度をモデル化することによって、日本の大学遠隔教育プログラムにおいてチューター制度を導入・改善するにあたっての指針となれば幸いである。

¹⁾ 放送大学准教授（ICT活用・遠隔教育センター）

Ⅱ. 調査の概要

平成20年4月から平成21年3月にかけて、以下の11校を訪問調査し、遠隔教育に携る教職員をヒヤリングし、情報収集を行った。(訪問調査日、対応者に関しては付録を参照のこと)

- 英国：オープン・ユニバーシティ
(U.K. Open University)
- 米国：メリーランド大学ユニバーシティ・カレッジ (University of Maryland University College)
- 米国：フェニックス大学 (University of Phoenix)
- メキシコ：バーチャル・モンテレー工科大学
(Virtual University Tec de Monterrey)
- 韓国：韓国デジタル大学
(Korea Digital University)
- 韓国：韓国国立公開大学
(Korea National Open University)
- ドイツ：ドイツ遠隔教育大学 (Fern Universitat)
- オランダ：オランダ・オープン・ユニバーシティ
(Open University of Netherlands)
- スペイン：オープン・ユニバーシティ・カタローニャ (Open University of Catalonia)
- スペイン：スペイン遠隔教育大学 (UNED)
- ギリシャ：ギリシャ公開大学
(Hellenic Open University)

Ⅲ. 調査結果のまとめ

大学によって様々な学習支援員(チューター)制度を採用していることがわかった。ここでは、チューターの役割、管理体制、学生とのコミュニケーション手段についてそれぞれ訪問した大学についてまとめる。

1. 英国オープン・ユニバーシティ (U.K. Open University)

英国のオープン・ユニバーシティ(UKOU)は、1969年に設立され1971年に開講されて以来、日本を含む世界の様々な地域で設立された公開大学のモデルとなってきた。学生数は約20万人弱で、そのうち学部生が約15万人、大学院生が約3万人である。ほとんどの学生がパートタイムの学生であり、学部生の7割程が有職者である。そのうち約5万人の学生が、雇用者の財政支援により受講している。また、約2万5千人以上が、英国外に在住の学生である。

(1) チューターの役割

UKOUは、設立以来、支援されたオープン学習(supported open learning)という教育形態を取ってきており、チューター(現在UKOUにおいてはAsso-

ciate Lecturersと呼ばれている)は大学の教育において大変重要な役割を担っている。学生数20万人近くを誇る大規模な大学であるだけに、そのチューターの数も8000人に上る。チューターの2割ほどが他の教育機関でフルタイムで働いているが、大半がパートタイム(非常勤)である。英国Milton KeynesにあるUKOUの本部に常勤で勤務している教員も、チューターをする場合があるが、その場合でも、本務とはまた別個の契約を結ぶことになっている。

UKOU本部で働く教員が、コース教材の設計・開発に従事する(コースチームと呼ぶ)が、コースを開講するに当たって実際に教材を基に学生とインタラクションを図っていくのはチューターの役目であり、チューターが担当する学生の課題(どんな課題を出すかは本部の教員が決める)を添削し、学生にフィードバックを与え、学習指導を行っていく。担当する学生の学習進捗状況をモニターするのもチューターの役目であり、あまり進捗が見られない学生に対しては個別にコンタクトを取り、アドバイスをを行う。チューターは、コースの最後に行われる期末試験の添削は行わない。期末試験は、ほとんどの場合、地域支部で対面で行われるが、地域支部に行けない学生に対して、試験のための訪問サービスを行うこともある。

(2) チューターの実管理体制

チューターを雇用決定するのはUKOU本部であるが、UKOUは、英国内に13の地域支部が存在し、チューターはそれぞれの地域支部に所属することとなっており、各支部で様々な形でチューターに対するFDが行われている。UKOU本部にチューターに対する様々なサービスを行う部署があり、そこでガイドブックを作成・配布したり、チューターのための様々なリソースを提供するポータルを作成・公開したりしている。

チューターが行う教育活動の質の保証に関しても徹底した管理体制をとっており、新規採用されたチューターに対しては様々なトレーニングを行っている。また、コースを担当し始めると、それぞれのチューターが添削した課題¹を無作為に選出し、第三者に評価してもらう、ということを行っている。また、チューターが出した成績を全国平均と比較して、あまりにも差がある場合は、チェックをしている。添削の仕方が思わしくないと思われるチューターに対しては、ライン・マネジャーがそのチューターに指導を行う。

チューターは、第三者やライン・マネジャーから評価されるのみならず、学生からも評価をされる。学生からの評価も、ライン・マネジャーがまずチェックをし、その後、チューターにフィードバックするとともに、機関レベルで分析を行う。

チューターの雇用契約は大方8年²であるが、現在のところ、チューターに対するキャリアパスはなく、

1 提出された課題に対して、14日以内に添削を行い、学生に返却しなければならないこととなっている。

2 1コースの寿命が大方8年であるため。

長く働いているチューターは報酬が増えることはあっても、役割が変わることはない。ライン・マネジャーになるにあたっては、再度、申請をしなければならず、勤務成績がよいから、ライン・マネジャーになれるわけではない。今後、チューターに対してもキャリアパスを作り上げていくことが、今後の課題となっている。

(3) チューターと学生のコミュニケーション手段

UKOUにおいて、チューターと学生は様々な形でコミュニケーションを図っている。対面によるチュートリアルを行うこともあれば、電話、メール、コンピュータ会議システム等を用いて遠隔でコミュニケーションを図ることもある。最近では、メールやウェブベースのシステム上でコミュニケーションを図ることが多くなってきている。従来、UKOUは電話によるコンタクトに力を入れてきており、電話のコンタクト方法の詳しいガイドブックやツールキットが準備されている。

2. メリーランド大学ユニバーシティ・カレッジ

(University of Maryland University College, UMUC)

UMUCは、1947年に、米軍軍人や企業幹部といった有職者のために設立された大学であり、11校あるメリーランド州立大学システムの1校である。現在、世界24カ国から9万2千人ほどの学生を抱えており、そのうちの半分が米軍関係者である。約半分の学生が米国国外に居住しており、9割の学生が有職者である。学生の平均年齢は31歳で、57パーセントが女性である。UMUCはメリーランド州にある15のコミュニティカレッジと連携を取っており、41パーセントの学生が、UMUCの学生となる前にメリーランド州のコミュニティカレッジの学生となっている。公立の大学としては、米国最大規模のオンライン遠隔教育大学であり、32の学科、14の研究科が、フルオンラインで学位取得コースを提供している。

(1) チューターの役割

UMUCには、1000人以上の支援スタッフが存在するが、それは、技術的ヘルプ、図書館サービス、学生サービスに関するもので、学習における支援（チューター）というものは、存在しない。科目における学習に関しては、従来の対面授業における指導のように、担当教員の責任であり、担当教員以外のチューターという制度はない。オンライン大学、という性格もあって、技術的なサポートに関しては、年中24時間体制で行っており、メールやチャット、電話という形でサポートを行っている。

(2) チューターの管理体制

前述したように、UMUCにはチューターは存在し

ないが、教員のFDは積極的に行っている。UMUCではWebTycoという独自のLMSを用いてオンライン教育を行っているが、新任教員はWebTycoの効果的な活用のための5週間のインテンシブなトレーニングコースを修得しなければならず、その中で、技術的なハウツーのみならず、効果的な教育方法等を中心としたセミナーを行っている。また、その他にも、オンライン上でのワークショップや、教員のオンラインコミュニティ、オンライン上でのベストプラクティスの共有等、絶え間ないFD及び情報交換を務めている。

(3) チューターと学生のコミュニケーション手段

UMUCにおけるオンライン教育はインタラクティブ性を重視しており、1クラスにおける学生対教員の比率は20~25対1となっている。コースを担当する教員が学生の学習に対して責任を持ち、独学的なマルチメディアの教材に依存するというよりは、ディスカッションボードを用いたインタラクションを主に、学習指導を行っている。

3. フェニックス大学 (University of Phoenix)

フェニックス大学は、営利目的の大学（会社大学）であり、アポログループ（Apollo Group）がその親会社である。アポログループは、フェニックス大学の他に、Institute for Professional Development, College for Financial Planning, Western International Universityという3つの高等教育機関を運営しており、米国の営利大学会社では最大規模である。フェニックス大学は1975年に設立されたが、オンライン・キャンパスを開設したのは1989年である。1995年までは創設者John Sperling氏の個人経営であったが、1995年にアポログループという名前で上場した。現在、約30万人の学生を有し、そのうち約20万人がオンラインの学生で、約10万人が対面学習の学生となっており、学生は120カ国から受講している。大学のキャンパス³は全米で128箇所があり、本部はアリゾナ州フェニックスにある。設立当初は、年齢的にも高い社会人を対象としていたが、最近では年齢層がだんだん低くなってきており、学生の平均年齢は34歳となっている。教員数は約25,000人で、そのうち専任教員は数百人で、ほとんどが非常勤講師である。

(1) チューターの役割

フェニックス大学では、チューターという特別な学習支援者は存在しないが、コースごとに契約を結ぶ非常勤の教員がいわゆるチューターの役目を担っている。常勤の教員は、大学管理やコース開発に携り、非常勤の教員が主にコースレベルで学生の指導を行っている。非常勤教員のほかに、希望する大学の学生が4~6週間の研修を受けた後雇用されるアカデミック・

3 キャンパスといっても、ほとんどがオフィスビルの一角に教室が設けられているものである。

アドバイザーが存在する。アカデミック・アドバイザーになった学生は授業料が免除され、コースの中で他の学生がちゃんと授業に追いついているかをモニターし、何か問題があると思われる学生がいれば、教員に報告する。

(2) チューターの管理体制

フェニックス大学では、新任教員採用時に3週間のオンライン授業向け研修を行っており、教員が学生と同じ立場でオンラインの授業を体験し、様々なオンラインにおける教育方法を修得するようになっている。ディスカッション型授業を重視しているフェニックス大学では、オンライン教育においても、ただ情報をどのように伝達するか、のみならず、どのようにディスカッションをファシリテートするか、というスキルに焦点をおいて研修を行っている。研修終了後には、メンターである先輩教員と共同でまずクラスを半年間担当し、その後で、初めて単独でクラスを受け持つことが許可される仕組みになっている。また、毎年、教員同士の評価がある。

(3) チューターと学生のコミュニケーション手段

教育の質を保つため、フェニックス大学では、一クラスの学生数を14人ほどに限定しており、これは、対面授業にも、オンライン授業にも当てはまる。フェニックス大学では、ソーシャルネットワーク等を活用して、学生が自らの学習に積極的に取り組めるよう様々な仕掛けを用意しており、学生の能動的学習が学習効果に繋がると考えられている。学生は、どの科目においてもオンラインか対面⁴かの選択ができるようにデザインされている。

学生のレポート提出に関しては、ツールを用いて効率化を図っており、提出されたレポートに関する著作権侵害の有無、文法チェック、さらに、レポートの内容評価の自動化の試みも行われており、また、コメントの自動付与などの機能もある。

4. バーチャル・モンテレー工科大学

(Virtual University Tec de Monterrey)

モンテレー工科大学は、1945年に創設された私立の大学であり、メキシコ国内に33のキャンパス、海外（ベルギー、カナダ、中国、フランス、スペイン、スイス、米国）に13の支部を有している。1992年から遠隔教育を始め、メキシコでは遠隔教育を衛星通信技術で始めた最初の大学である。今では、インターネットによるオンライン教育が遠隔教育の主流となっており、オンラインのみで修得できるプログラムと、衛星技術を組み合わせたプログラムとがある。衛星技術を組み合わせたプログラムでは、学生は最寄のキャンパスに行き、衛星で放送された講義を視聴する。現在、

29カ国に居住する延べ9万5千人の学生が在籍している。9万5千人の在学生のうち、約9千人が学部生、約6千人が大学院生で、残りは生涯教育プログラムの科目履修生となっている。

(1) チューターの役割

衛星放送による講義のクラスでも、フルオンラインのプログラムでも、チューターはオンライン上で学生の指導にあたる。学部のみで約100名のチューターを有し、そのほとんどがフルタイムで学生の指導にあたっている。フルタイムのチューターの他に30~40名のパートタイムのチューターがおり、大学院プログラムにもそれぞれ30~50名のチューターがいる。ヴァーチャル大学側で働いているスタッフのほとんどがチューターを兼業している。チューター一人が約70名ほどの学生を指導しており、学生のメールに対して、24時間以内に返答を出さなければいけない決まり（平日のみ）になっているが、ほとんどの場合日中であれば3~4時間、夕方以降であれば12時間以内に返答が送られている。

(2) チューターの管理体制

構成主義に基づいたディスカッションベースの授業を中心とするため、そういったオンライン教育を行うチューターの養成には、200時間（オンライン及び対面）の研修を課している。この研修を無事修了し、オンラインチューターの資格を得たもののみが、実際のオンライン教育に従事することが出来る仕組みになっている。

チューターの他に、コールセンターを設けており、年中無休で技術的なトラブル等の迅速な対処にあたっている。

(3) チューターと学生のコミュニケーション手段

バーチャル・モンテレー工科大学では、チューターと学生のコミュニケーション手段は主にメールであるが、メールのほかウェブ会議システムを活用して、コースにおける学生間のインタラクション、及び、チューターと学生のインタラクションを図っている。また、全てのコースはブラックボード⁵（LMS）上であり、ブラックボード上のディスカッションボードやメール機能でインタラクションを図っている。

5. 韓国デジタル大学 (Korea Digital University)

韓国デジタル大学は、韓国教育・人的資源開発部が、1999年8月に生涯教育法を施行し、設置を規定した17のサイバー大学のうちの一つであるが、2008年には、高等教育法の管轄に移り、そのステータスは通常の大学と変わらないものとなった。1学年の定員数が2,500名で、現在、全学生数は7,000人を越えている。

4 フェニックス大学では、対面教育をオングラウンド (onground) 教育と呼んでいる。

5 バーチャル・モンテレー工科大学は、そのユーザー数で、世界第二のブラックボードユーザーである。

デジタルメディアデザイン、デジタル情報、言論映像、デジタル経営、生涯教育、文化芸術、社会福祉、実用外国語、法学、情報行政、青少年、不動産経済、税務・会計、と大学の特徴を生かした実務的なプログラムを提供している。教員数は、専任教員が40名弱、客員教員が200名ほどである。

(1) チューターの役割

韓国デジタル大学では、学習支援として国内で初めての「ユニバーシティカウンセラー」制度を実施している。これは、2名の専門家の相談役が、勉学・学生生活・教員とのトラブル等、多種多様な学生からの相談に応じている。また、遠隔支援センターでは、電話による技術的な問題解決に当たっている。

コースの学習に関しては、教員がチューターの役目も果たし、大体1クラス100名の学生を担当する。クラスの規模が大きくなり学生数が200名を超えると、クラスを分けて1クラスが100名を超えないようにしている。一人の教員に対して週に4時間働けるTAが一人付き、教育に関する補助的な役割を担っている。TAはソウル市内で大学院に通っている学生であることが多い。

(2) チューターの管理体制

韓国デジタル大学では、新任教員に対して、国家機関による1年間のワークショップのほか、オリエンテーションを行っている。また、必要に応じて随時ワークショップなどが実施されている。TAに関しては、中央的な管理体制はなく、教員一人ひとりの裁量に任されている。

(3) チューターと学生のコミュニケーション手段

韓国デジタル大学は全てオンラインで教育を行っており、教員と学生のコミュニケーション手段はメールかディスカッションボードとなっている。

6. 韓国国立公開大学

(Korea National Open University, KNOU)

KNOUは、高等教育を受講できる機会を広げて生涯学習社会を達成するために、ソウル国立大学の短期大学部として、1972年に設立された公開大学である。1982年にソウル国立大学から独立し、4年制の学士プログラムを有する国立大学となった。時間、場所に制約されない教育機会を提供し、テレビ放送による講義、TV会議システムによる講義、または、インターネット配信による講義など、幅広い形で教育を提供している。また、地域に散在する14のキャンパス、及び35の教育センターで、対面授業も行っている。現在、約20万人の登録者数と、約40万人の卒業生を有する。

(1) チューターの役割

KNOUにおいては、3層構造の学習支援を行っている。教員による対面のチュートリアルセッション、チューターによる対面及びオンラインによる学習支援サービス、そして教員が出張して行う特別な学習支援セッションである。最後にある教員が出張して行う特別な学習支援セッションは、14の教育センターで行われる定例のチュートリアルセッションを補完するものである。KNOUの専任教員は、毎学期、地域の教育センターを訪問し、特別講義、セミナーを実施したり、学生の個別相談に応じたりしている。

3年前まで、KNOUにおいて、チューターは教育センターにおいて対面で学生に対して学習指導を行っているのみであったが、KNOUがオンライン教育に移るしたがって、オンライン上でのチューターも必要となっており、サイバー・チューター制度という名のもとに、ソウル市内の大学で博士課程を行っている学生を主にチューターとして雇い、学生にオンライン上で個別指導を行っている。教育センターにおけるチューターは主に、コース内容に関する指導というよりは、学生が個人のニーズに合った学習プランを設定するための助言等を行っている。

(2) チューターの管理体制

教育センターに所属するチューターはそれぞれの地域の教育センターで雇用・管理を行っている。オンライン教育におけるチューターは、学部ごとに管理されており、特に担当する教員がチューターの仕事内容を決める場合が多い。

(3) チューターと学生のコミュニケーション手段

教育センターで仕事に従事するチューターは、学生とは対面でのコミュニケーションが主となっているが、オンライン教育におけるチューターはメールでのコミュニケーションが主となっている。教育センターのチューターに関しては、学生からの評価を定期的に行っており、チューターの質の向上に努めている。

7. ドイツ遠隔教育大学 (Fern Universität)

ドイツ遠隔教育大学 (以下、Fernと略す) は、1974年に設立され、1975年12月に開講したドイツで唯一の国立遠隔教育大学である。あらゆる面において、他のオンキャンパスの国立大学と同等の扱いであり、学生の入学資格においてもドイツの他の国立大学と変わらない。4つの学部 (経営・経済学部、文化・社会科学学部、法学部、数学・コンピュータ学部)、54の学習センター、71名の専任教員、355名のチューターとメンター⁶、628名の職員、55,450名の学生を有している。学生の年齢は大体が29歳から35歳までで、8割が有職者であり、9パーセントの学生が外国人、8パーセン

6 Fernでは、Hagenの本部で勤務する学習支援員をチューターと呼び、地方の学習センターで勤務する学習支援員をメンターと呼んでいる。

トの学生がドイツ国外に在住している学生である。ドイツの国営大学は、学費は基本的にゼロであったが、最近では、様々な形で授業料を課してもよくなり、通常の大学では1学期に約2000ユーロの授業料を課しているところが多いが、Fernでは約200ユーロと、他大学に比べて授業料が低くなっている。

(1) チューターの役割

Fernでは、基本的に自学自習の伝統的な遠隔教育方式を取っており、チューターは、Hagenにある大学本部で、学部の教員について主にコースに関する学生の指導にあたり、メンターは、地域の学習センターで、主に対面による一般的な学習指導にあたり、教育方式も大学側の説明にも“knowledge transfer”と謳っているように、知識伝達型のモデルである。教員は、コースを作成するほかにも、学生の指導にも直接かかわっており、学習センターに出張しては、週末にセミナーを開催したりして、対面指導も行っている。チューター・メンターは、そういった教員の指導を補助する役割を担っている。学生は、少なくとも卒業するまでに2～3回は対面の授業を取らなければならない、対面指導でのメンターの役割は大きい。

(2) チューターの管理体制

本部で勤務するチューターは、大学院生がほとんどであり、学部ごとに管理がなされている。地域の学習センターで勤務するチューター（メンターと呼ぶ）は、ほとんどが、パートタイムベースで、それぞれのセンターにおいて学習指導・学習支援や学習相談に従事している。

(3) チューターと学生のコミュニケーション手段

学生の学習支援に関しては、メール、電話、ディスカッションボード等、様々なコミュニケーション手段が用いられている。Moodle上で、バーチャル・メンター制度という制度を設け、メール・チャット・ディスカッションボードを活用したオンラインでのメンタリングに積極的に取り組んでいる。また、学習センターでの対面によるコミュニケーションも大きな割合を占めている。期末試験は、通常学習センターや他のオンキャンパスの大学で実施されるが、海外に在住する学生など、学習センターに行くことが不可能な学生に対しては、ビデオ会議を使って試験を行うことも頻繁になされている。

8. オランダ・オープン・ユニバーシティ

(Open University of Netherlands, OUNL)

オランダのオープン・ユニバーシティ（以下OUNLと呼ぶ）は、オランダ政府が出資して設立された遠隔教育大学で、1984年9月に最初の卒業生を出している。オープン・ユニバーシティという名称からも分かるように、英国のオープン・ユニバーシティの理念と同じく、今まで大学に通うことが出来なかった人たち

に高等教育を提供する、という目的で設立された。人文・情報科学・経営学・自然科学・心理学・法学・教育学の7学部を有し、約300のコース、約3万人弱の学生を抱えている。半数以上の学生が35歳以上であり、約6割の学生が有職者である。オランダ国内に12の学習センターがあり、国外に6つの学習センターがある。

(1) チューターの役割

英国のオープン・ユニバーシティ（UKOU）とは異なって、OUNLでは、学生はコースをいつでも始めることが出来るようになっており、自学自習が基礎となっている。OUNLにはUKOUのような独立したチューター制度は存在せず、大学本部に勤務する教員や学習センターに所属する教員がパートタイムでチューターのような役目をこなすこともあるし、チューターとして誰かを雇う場合もある。ほとんどのコースが教科書を使用しており、コースの教材の開発に関しては、教員の責任であり、そのコースを教えるにあたってはその教員の責任となっており、大学全体でみんなが従うモデルというようなものはない。様々な学習センターで対面指導や特別講義が行われているが、どれも学生にとって必須ではなく、成績評価に直接関係するものではない。

OUNLが考えている新しい教育モデルとして、学習コンテンツを無償で提供して、チュータリング、試験、資格や学位の授与等、その他のサービスを優良にする、という考えがあり、近い将来それが試行的に実施されるかもしれない。

(2) チューターの管理体制

学部全部に通ずるチューター制度というものは存在しないが、それぞれの学部において、チューターは雇用・管理され、研修を受けており、またオンライン上でのチューターのコミュニティというものも存在する。

(3) チューターと学生のコミュニケーション手段

コースに関する学習指導では、教員がそれぞれ好みの中で学生とコミュニケーションを図っており、大学全体の均一モデル、というものはない。試験はほとんどの場合、学習センターで対面で行われているが、オンライン上で行うシステムも開発されている。試験にあたって、Web2.0を使って勉強会を開いている学生なども多く、自主的に学習が行われているケースが多い。

9. オープン・ユニバーシティ・カタローニャ

(Universitat Oberta de Catalunya, UOC)

オープン・ユニバーシティ・カタローニャ（以下UOCと呼ぶ）は、カタローニャ政府によって1994年に設立されたオープン・ユニバーシティである。設立にあたって、スペインには、既にUNED（次節にて説

明) という英国のオープン・ユニバーシティのモデルに基づいた遠隔教育大学が存在したが、スペイン語ではなくカタロニア語で教育を提供するオープン・ユニバーシティを設立するため、また、カタロニア自治区にICTを広く普及させるため、カタロニア政府の出資で設立された。他のオープン・ユニバーシティに比べると新しく、設立当初からインターネットを主な教育基盤にすることを構想して設立されたため、どのオープン・ユニバーシティよりも革新的である。他のオープン・ユニバーシティのような学習センターは一切有せず、定期的な対面授業も行っていない⁷。学習者中心主義をモットーに、ICTを駆使して様々な形で教育が行われてきているが、大学としてはカタロニアの大学システムの一部であり、他の大学と同じ認証評価を受けている。世界で初めてのフルオンライン大学であると、UOCは謳っている。学生数は、現在約5万人であり、そのうち大学院生が1000名ほどである。200名弱の専任教員を有し、2000名弱の非常勤講師を雇用している。19の学部プログラム、32の修士プログラム、そして1つの博士プログラムがある。

(1) チューターの役割

UOCにおいては、新生は全てチューターが一人割り当てられ、履修にあたってのあらゆる相談をそのチューターにすることになっている。この場合のチューターとは、大学生活に関するアドバイザーやメンターの役割を果たし、コースの学習内容に関する相談は受けない。一人のチューターが約50～75名の学生を担当している。UOCでは、コースの学習内容に関する指導を行う人員をカウンセラーと呼び、カウンセラーはコース内容に関して、バーチャル教室内で学生とコミュニケーションを図る役割を担っている。カウンセラーは主に他大学で働く教員であり、UOCとの契約で限られたコースに対して学生の学習指導を行う。UOCでは、学生の成績評価に関して、形成的評価方式を積極的に取り入れており、期末試験のみならず、学生の学習進捗状況にも注意を払って成績を付けているため、学生の成績評価に関するカウンセラーの役割は大きい。

(2) チューターの管理体制

チューターに関しては、UOCのチューター支援部門でチューターを中央的に管理しており、チューターのオリエンテーション・研修を行っている。

前述したように、カウンセラーは主に他大学で働く教員であるが、そのカウンセラーをコースごとに管理するのは、UOCで専任で働いている教員である。UOCの専任教員が最終的にはコースの内容について責任を持たなければならないため、その教員が担当するコースについているカウンセラーもその教員の責任になる。

(3) チューターと学生のコミュニケーション手段

一つの科目に対して学生数に合わせてバーチャル教室がオンライン上で設けられており、一つのバーチャル教室に最低一人のカウンセラーが付く仕組みになっている。チューターとカウンセラーは常にバーチャル教室をモニターしており、チューターは学生のコミュニティ作りを促進する役目を果たし、カウンセラーは、コース内容の学習を促進する役目を果たす。

10. スペイン遠隔教育大学 (UNED)

スペイン遠隔教育大学（以下、UNEDと呼ぶ）は、30年前の1979年に設立されたスペイン国立の公開大学である。大学としてスペインの他の大学と同格にあるが、他の大学は対面授業を主な授業形態とするのに対し、UNEDは遠隔教育を主な授業形態としており、対象とする学生は全国に散らばっている。他の遠隔教育大学と同じく、印刷教材やAV教材を主要な教材とし、ラジオによる講義、チューターによる学習指導、そして最近になって増えつつあるインターネット上での学習を特徴としている。

UNEDはスペイン全国に60の学習センターを有し、欧州・南米を中心に15の学習センターを、米国ワシントンDCに国際企画オフィスを有している。

(1) チューターの役割

UNEDの基本的な考え方に、学習に当たって、学生とチューターとの直接的な係わり合いは必須ではない、というものがあり、教材内容の明確さに重点を置き、成績評価に当たっては、コンテンツが教員から学生から適切に伝達 (transmit) されているかを評価するものとしている。

チューターの最も大きな役割として、対面で行われる期末試験前の学生評価がある。学生は、自主的に学習を進めていくにあたって、教材に含まれる遠隔評価テストというものを受けることになっている。そのテスト方式は教材によって様々であり、選択式テストであったり、エッセイであったり、ケーススタディであったり、オンライン上でのディスカッションであったりする。そういったコース中のテストを採点評価し、学生一人ひとりについての進捗情報及び成績情報を教員に伝えるのが、チューターの役目である。学生の最終的な成績は、このチューターのレポートと、対面で行われる期末試験の結果に基づく。

(2) チューターの管理体制

UNEDの学生は、学習センターを通して入学が許可され、その学習センター所属のチューターが学習センターで登録した学生を担当することになっている。このようにチューターは学習センター所属であり、チューターの採用・配属・研修はそれぞれの学習センター

7 卒業式は対面で行っている。

で行われている。

(3) チューターと学生のコミュニケーション手段

学生は、学習センターに所属するチューターと電話、メール、手紙、対面のいずれかの方法でコミュニケーションを取る。学生は、学習の進捗状況をレポートする評価ノートを定期的を書いて担当チューターに送らなければならない、チューターは送られてきた評価ノートにフィードバックをしなければならない仕組みになっている。学習センターでは、定期的にセミナーやワークショップを催し、学生がチューターと対面でコミュニケーションを図れる機会を設けている。学生は、学習における問題について、チューターのみならず、教員にもメールか電話で相談をすることが許されている。

11. ギリシャ公開大学

(Hellenic Open University, HOU)

ギリシャ公開大学（以下HOUと呼ぶ）は、他の公開大学と比べると比較的新しく、1992年に設置法が施行されたが、実際に開講されたのは1999年であり、学費も他の大学に比べて低いわけではない。ギリシャ初の公開大学であり、大学としてはギリシャの他の公立大学と同格のものである。現在、約28000人の学生を有し、そのうち約6割が学部生である。チューターは1300名余りいるが、専任教員は27名である。チューターというのは、主に他の大学で教員をしている非常勤講師で、年間契約で雇用されている。HOUには学習センターというものはなく、9地区に支部局が置かれている。

ギリシャの大学に入学するには大変難しい試験をパスしなければならないため、そういった入学試験を課さないHOUには、毎年多数の入学申し込みが殺到し、約10人に一人の割合で、申請者からくじ方式で入学者が決定される。しかしながら、他の大学に入学する資格のある18～22歳の学生は申請することは出来ず、HOUの入学申請者は23歳以上でなければいけない。入学するくじ引きの倍率は高く、幸運にも入学できた学生の動機は一般的に高いが、大学レベルの学習を自主的に行える能力を備えた学生が少ないため、入学後ドロップアウトする学生も非常に多い。HOUの教育モデルとして、年5回の対面セッション、年に4～6回の課題レポート、9地域で開催される対面試験が特徴としてある。HOUを修了するのは大変である、という認識が高まってきており、最近ではある程度のレベルに達した学生しか応募しなくなってきたため、学生の質も高まってきているという。

(1) チューターの役割

チューターは年5回の対面セッションを行う。1回約4時間のセッションで、対面セッションにおいては、講義を行うというよりは、学習に関する問題を話し合うことが中心である。前述したように、学生は1

科目につき4～6回20～25ページの課題レポートを提出しなければならない、その採点評価をするのがチューターの役目となっている。このレポートで一定以上の評価を受けなければ学生は期末試験を受けることが出来ないが、この課題レポートの成績が、学生のコースの成績に占める割合は3分の1か4分の1に過ぎない。

(2) チューターの管理体制

チューターは、主に教員が自分が担当するコースのために採用する。採用にあたっては、1年に1回応募し、書類選考を経て採用となる。毎年、学生によるチューター評価を行い（今年度からオンラインで行うという）、チューターの質の向上に努めている。

(3) チューターと学生のコミュニケーション手段

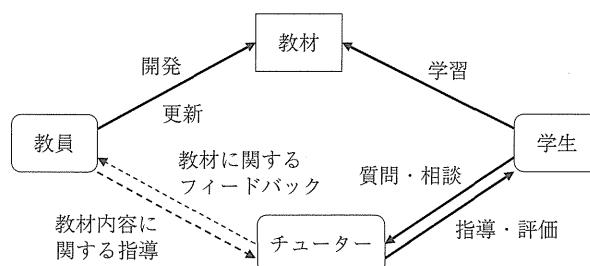
HOUでは、LMSは使用可能になってはいるが、学習においてLMSを活用している教員・学生は少ない。ビデオ会議システムが遠隔の学生とのコミュニケーションを図るために使われることも度々ある。普段のチューターとのコミュニケーションは電話が主に使われるが、手紙が使われることもまだ多い。

このようにチューターと学生間のコミュニケーションにインターネットが使われるのはまだ少ないが、チューター間のコミュニケーションにはインターネットがふんだんに使われているという。

IV. 学習支援制度のモデル

前節で、海外の遠隔教育大学11校それぞれにおける学習支援員（チューター）制度をまとめ、遠隔教育の形態・歴史・国家風土によって、チューター制度も様々であることがわかった。しかしながら、チューター制度について全体を眺めてみると、①チューター独立型、②教員＝チューター型、③学習センター型、④チューター従属型、の4つモデルに大別される。以下にそれぞれのモデルについて説明をする。

1. チューター独立型

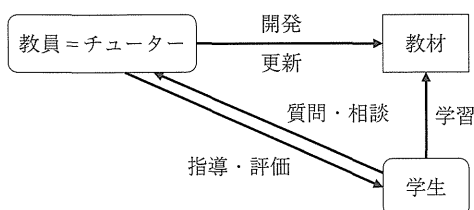


このモデルにおいて、教員は主に教材開発に携り、その教材を使って学習する学生を、チューターが直接的に指導する役目を果たす。チューターは学習内容に関する学生からの質問に答える他に、学生の形成的評価を行い、また、学生の進捗状況をモニターして、ド

ロップアウト防止にも注意を払う。チューターと教員の主従関係はないが、チューターは教員から教材の内容についての指導を受けるとともに、教材に関して教員に定期的にフィードバックを提供する。

このモデルによるチューター制度を提供している大学は、英国オープン・ユニバーシティ（UKOU）、米国フェニックス大学、メキシコのバーチャル・モンテレー工科大学であり、比較的学生の多い、大規模な遠隔大学にみられるチューター制度である。

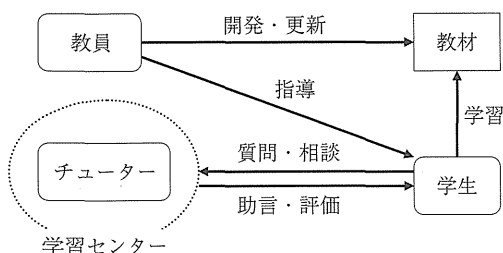
2. 教員=チューター型



このモデルにおいては、学生の学習指導にあたって教員以外にチューターという特別な支援員は存在せず、教員が直接学生の学習指導を行い、学生からの質問にも応答するという、従来の大学形式を取っている。教員が教材に関して開発・採択責任を持ち、学生の指導にも直接携ることによって、教員が一貫してコース提供、及びそのコースに登録する学生の学習に対して責任を持つ形となる。

米国メリーランド大学ユニバーシティ・カレッジ（UMUC）や韓国デジタル大学（KDU）などが、この形式を取っており、その他、伝統的の大学等で遠隔教育を実施する場合も、この形式を取っている大学が少なくない。ただ、学生数が多くなってくると教員の負荷が多大なものになり、教育の質が低下する恐れもある。

3. 学習センター型

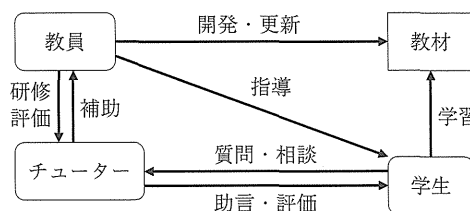


このモデルでは、チューターは主に学習センターに所属し、本部の専任教員とは異なった場で、学生の指導・評価にあたる。このモデルでは、チューターは学習センターにおいて対面で学生の学習指導や相談にあたる事が多く、大抵の場合、コース内容に直接的に関連する指導ではなく、学習一般に関する相談や助言にあたる場合が多い。

このモデルの代表的な大学としては、韓国国立公開

大学（KNOU）、ドイツ遠隔教育大学（Fern）、スペイン遠隔教育大学（UNED）が挙げられる。このモデルでは、学習センターが各地域にあることを前提としているため、学習センター維持・運営のコストがかかる一方、チューターは学習センター所属となるため、学習センターにおいてチューターの管理を行い、それぞれの地域の特色を出すことが可能である。

4. チューター従属型



このモデルでは、チューターは教員の仕事を補助し、教員の下で学生の指導・評価にあたる。従来の大学では、ティーチング・アシスタント（TA）にあたるもので、大体において、教員がチューターの採用・研修・評価を行う。このモデルでは、チューターがどのような役割を担い、どのような指導・評価を学生にするかは、教員の自由であり、教員によってチューターの仕事内容も変わってくる。

遠隔教育大学の中でも比較的新しいオランダ・オープン・ユニバーシティ（OUNL）、スペインのオープン・ユニバーシティ・カタローニャ（UOC）、ギリシャ公開大学（HOU）が、このモデルで学習支援を行っている。このモデルは、学部・教員による自由度が高いため、新しいことを行うのに適している反面、コースによりチューターの質が様々であり、全体としての教育の質、という面で中央的に管理することが難しい。

V. まとめ

放送大学において現在、正式なチューター制度はまだ導入されていないが、現状を鑑みると、各学習センターにおいてセンター長を中心に非公式なチューター制度が存在し、前述のモデルをみると「3. 学習センター型」に最も近いように思われる。しかしながら、放送授業の内容に関しての学習支援を行う役割を担うチューターが現在のところほとんど存在しない。本稿においては、様々なチューター制度をモデル化することを試みたが、今後の研究としては、どのようなチューター制度において学習者が最も効果的に学習を行えるのかを探求する必要があるだろう。

付録

調査機関	調査日	対応者
オープン・ユニバーシティ (英国)	2008/06/01	Professor Chris Jones Professor Grainne Conole
メリーランド大学ユニバーシ ティ・カレッジ (米国)	2008/09/24	Dr. Susan C. Aldridge, President Professor Mark L. Parker, Assistant Provost for Academic Affairs
フェニックス大学 (米国)	2008/09/26	Dr. Adam Honea, Provost Dr. Marla LaRue, Dean, College of Education
バーチャル・モンテレー工科 大学 (メキシコ)	2009/01/23	Ms. Armida Lozano Castro, International Development Director Dr. Carlos A. Villanueva, Director of Strategic Development
韓国デジタル大学	2009/02/11	Dr. Yon-Jeong Park, Professor Dr. Soo-Gil Oh, Dean of Academic Affairs & Students
韓国国立公開大学	2009/02/11	Dr. Tae Rim Lee, Professor
ドイツ遠隔教育大学	2009/02/27	Mr. Driedhelm Nickolmann, International Relations Division Dr. Bernd Kramer, Professor and Head, Department of Mathematics and Computer Science
オランダ・オープン・ユニバ ーシティ	2009/03/02	Mr. Fred de Vries, Assistant Professor Technology Enhanced Learning Dr. Wim Westera, Programme Director Learning Media
オープン・ユニバーシティ・ カタローニャ (スペイン)	2009/03/04	Ms. Lourdes Gil Jubany, International Relations Office Mr. Magi Almirall, Learning Technology Director
スペイン遠隔教育大学	2009/03/06	Professor Miguel Rodríguez Artacho, LSI Department
ギリシャ公開大学	2009/03/09	Professor Antonis Lionarakis, Associate Professor in Open & Distance Learning Professor Angeliki Petropoulau, Associate Professor in the School of Humanities

(2009年11月2日受理)